

助け合いシステムの拡充による 生産力の向上と担い手の定着

十勝農業改良普及センター十勝南部支所

1 活動対象および概要

- ・対象農家：TMRセンター構成員7戸（幕別町忠類地区）
- ・具体的活動内容：①サイレージ用とうもろこしの栽培技術改善
②農場内の課題解決による計画乳量の達成



作戦会議のようす

2 背景・ねらい

課題

輸入飼料価格高騰

経営環境に左右されやすい経営体質

不安定な自給飼料

サイレージ用とうもろこしの収量・品質が不安定

後継者不足

後継者が決定している経営割合が29%

目標

サイレージ用とうもろこしの増収・栄養価向上

土壌 pH 改善

品種選定

自給飼料割合増加による飼料原価の安定化

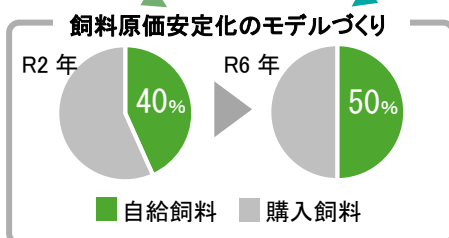
飼料設計支援

鳥獣害被害対策

後継者の課題解決能力向上

視察・構成員巡回

暑熱対策実施



3 活動の経過

土壌 pH 改善

→ 実証ほ設置で pH 改善効果を確認

品種選定

→ 3年間実証ほを設置。結果を地域へ情報発信

飼料設計支援

→ 自給飼料の分析結果と各牛群の状態に応じた設計

鳥獣害被害対策

→ サイレージへのツル、アライグマ、カラス対策を実



pH 改善効果確認試験のようす

視察・構成員巡回 → 他 TMR センターの視察・とうもろこし品種の情報収集

暑熱対策実施 → 牛舎の空気を冷やすミストを設置して効果を検証

4 活動の成果

収量・品質向上

- 石灰資材の費用対効果を算出し最適な投入量を明示

↓
来年度の石灰資材投入計画を3.4倍増量
R5年: 89ha
R7年: 306ha



- とうもろこしの熟期別 TDN 収量と NDF 消化率より収穫適期を提示

↓
地域の生産部会へ情報提供し収穫体系見直し

- 品種選定した5品種を新たに栽培



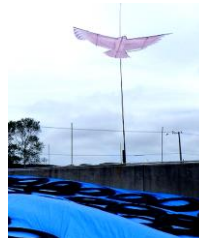
↓
とうもろこしの収量が22%増加 (R4年対比)

鳥獣害対策効果

- 被害順序を確認
① ツルがサイロシートに穴を空ける
↓
② アライグマがサイレージを掘り出す
↓
③ カラスが集まる

- 鳥獣別の対策
 - ・ ツル → テグス
 - ・ アライグマ → ネット
 - ・ カラス → タカ模型

↓
鳥獣害対策でサイレージ廃棄サイロ本数割合を62%低減



タカ模型設置

若手の貢献

- 積極的な視察で情報収集

↓
TMR センターに活気



視察で情報収集

- 構成員牧場へ巡回
↓
改善ヒントを得る

- 暑熱対策に投資

↓
効果的なミストの運用条件を学ぶ

- 前向きな姿勢・発言
↓
構成員全体へ影響
↓
技術改善見直しの気運

- とうもろこしの収量向上と貯蔵ロス低減により粗飼料不足が解消
- 粗飼料不足の解決により、構成員牧場の増頭に対しても飼料供給可能
- とうもろこし成分の向上と輸入牧草が不要になったことで、飼料価格高騰下においても、TMR 原価を 58 円/日・頭削減できるモデルを実証

5 今後の対応

- ① とうもろこし栽培 (肥培管理、品種差、収穫時期) に関する情報を地域へ波及
- ② 鳥獣害対策を地域へ波及
- ③ 暑熱対策などの乾物摂取量向上策を地域へ波及